

## 鹿児島県初記録のニベ科魚類クログチ

上城拓也・小枝圭太・本村浩之

〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

### はじめに

ニベ科クログチ属は、世界で 10 種が有効とされており (Sasaki and Kailola, 1988; Sasaki, 1995), 日本ではクログチ *Atrubucca nibe* (Jordan and Thompson, 1911) のみが知られる (山田・柳下, 2013). クログチは、インド・西太平洋の熱帯から温帯に広く分布し (Sasaki, 2001; 山田・柳下, 2013; Larson et al., 2013; Hussain and Jawad, 2014), 日本では東シナ海大陸棚域, 五島列島近海域, 豊後水道, 瀬戸内海, 紀伊水道, および土佐湾から相模湾の太平洋沿岸から記録されていた (山田ほか, 2007; 山田・柳下, 2013; 池田・中坊, 2015).

2015 年 12 月 9 日に鹿児島県大隅半島東岸の内之浦湾からクログチと同定される 1 個体が採集された. 本標本はクログチの鹿児島県からの初記録となるため, ここに報告する.

### 材料と方法

標本の計数・計測は Hubbs and Lagler (1947), Sasaki and Kailola (1988), および Hussain and Jawad (2014) にしたがった. 耳石の観察方法は Lin and Chang (2012) にしたがった. 標準体長を体長と表記し, デジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位で計測した. クログチの生鮮時の体色の記載は, 鹿児

島県内之浦湾産の標本 (KAUM-I. 82765) のカラー写真に基づく. 標本の作製, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した. 本報告に用いた標本は, 鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており, 上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている.

### 結果と考察

*Atrubucca nibe* (Jordan and Thompson, 1911)

クログチ (Figs. 1-2)

**標本** KAUM-I. 82765, 体長 118.7 mm, 鹿児島県肝属郡肝付町内之浦湾 (31°17'29"N, 131°06'59"E), 水深 30-35 m, 定置網, 2015 年 12 月 9 日, 小枝圭太・畑 晴陵・内藤大河・川内貴斗.

**記載** 背鰭 11 棘 30 軟条; 臀鰭 2 棘 7 軟条; 胸鰭 15 軟条; 腹鰭 1 棘 5 軟条; 鰓耙数 6 + 14. 体各部計測値とその体長に対する割合 (%) : 体高 33.1% (39.3 mm); 頭長 32.8 (39.0); 眼径 8.3 (9.9); 吻長 8.3 (9.9); 前眼窩骨長 5.3 (6.3); 眼後長 16.3 (19.4); 両眼間隔 8.3 (9.9); 第 1 背鰭前長 35.5 (42.1); 第 2 背鰭前長 35.7 (42.4); 臀鰭前長 70.0 (83.0); 胸鰭前長 32.4 (38.5); 腹鰭前長 35.4 (42.0); 肛門前長 66.3 (78.7); 背鰭基底長 61.2 (72.6); 背鰭棘部基底長 19.2 (22.8); 背鰭軟条部基底長 40.5 (48.1); 臀鰭基底長 9.1 (10.8); 臀鰭第 1 棘長 2.7 (3.2); 臀鰭第 2 棘長 8.6 (10.2); 胸鰭長 26.9 (31.9); 腹鰭長 18.8 (22.3); 尾柄長 21.7 (25.8); 尾柄高 8.3 (9.9); 鰓弁長 2.6 (3.1).

体は前後に長い楕円形. 側偏し, 体高は体長の 1/2. 頭部は小さく, 後頭部には骨質突起がない.

Uejo, T., K. Koeda and H. Motomura. 2016. First record of *Atrubucca nibe* (Perciformes: Sciaenidae) from Kagoshima Prefecture, Japan. *Nature of Kagoshima* 42: 265-268.

✉ HM: the Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp).

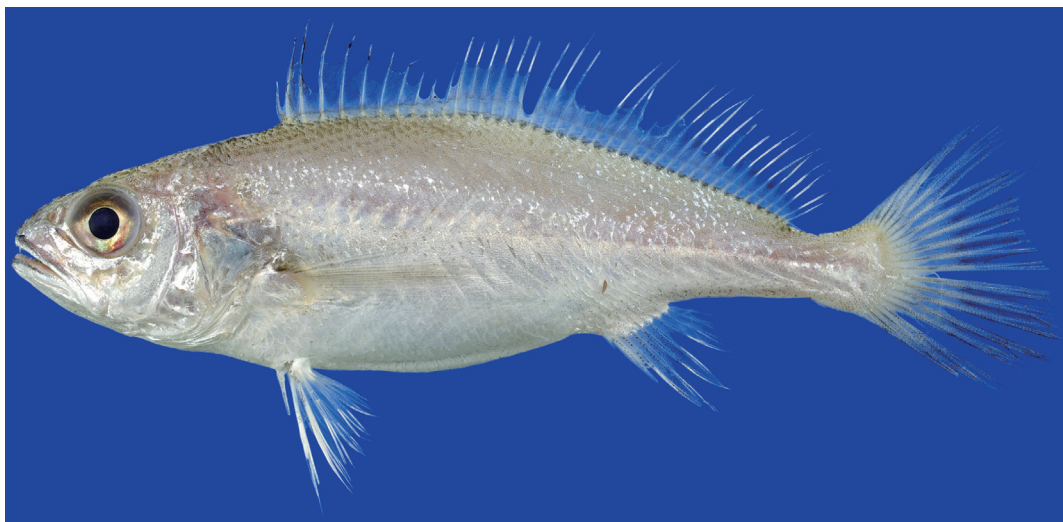


Fig. 1. Fresh specimen of *Atrubucca nibe* from Uchinoura Bay, Kagoshima Prefecture, Japan. KAUM-I. 82765, 118.7 mm standard length.

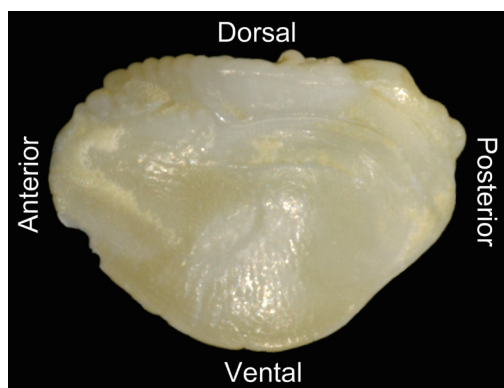


Fig. 2 Internal side of right sagittal otolith of *Atrubucca nibe*. KAUM-I. 82765, 118.7 mm standard length.

頭部背縁と腹縁は直線的で、吻は丸い。口は端位で、口裂は大きい。主上顎骨後端は眼の中央直下に位置する。下顎にヒゲはなく、下顎縫合部の腹面に微小な感覚管孔が2対ある。歯は細かく、犬歯がない。鼻孔は眼の前縁前方に2対あり、前鼻孔は円形で、後鼻孔は背腹方向に細長い楕円形。体と頭部の鱗は剥がれやすく、ほぼ全て脱落。各鱗の鱗条と鱗膜に鱗はない。第1背鱗は第3棘が最長で、後方で徐々に短くなる。背鱗棘部と軟条部の鱗膜は深く欠刻する。背鱗基底は長く、体高

の2.1倍。臀鱗の基底は短い。胸鱗軟条は全て不分枝で、第2軟条が最長。胸鱗後端は背鱗最後棘基部直下を越える。腹鱗軟条はすべて分枝する。尾鱗は二重截形か突形だが後縁が欠損。耳石(扁平石)は大きく、耳石長径は頭長の17.2%。角のない逆三角形で背側縁がわずかに凹むハート形。背側前方縁はヒダ状の凹凸がある。耳石内側面にはサルカスがあり、耳石の中央やや上部から後方に向かってゆるやかに湾曲する。耳石の外側面の中央部にはこぶ状突起が無数に集まる。耳石は厚く、厚みが最大となる耳石中央部での厚みは長径の33.0%。

**色彩** 生鮮時の色彩一帯と頭部は全体に灰白色で、腹部は銀白色。背部はやや黄色がかかる。主鰓蓋骨の裏側は黒色で、外側に黒色が透ける。両唇の外側はわずかに黒褐色。口腔内および腹膜は黒い。背鱗、臀鱗、腹鱗の棘、軟条および鱗膜は半透明の乳白色。臀鱗には小黒色素胞が散在する。胸鱗は全体に透明で上方半分に黒色素が散在し、半透明の褐色を呈する。尾鱗は灰白色で上葉と下葉の後端は淡褐色を呈する。

**分布** 南アフリカ東岸、ペルシャ湾、および西太平洋の熱帯から温帯に広く分布する(Sasaki, 2001; 山田・柳下, 2013; Hussain and Jawad,

2014). 西太平洋ではオーストラリア北部, インドネシア, フィリピン, 南シナ海, 東シナ海, 黄海, および日本からの記録がある (Sasaki, 2001; 山田・柳下, 2013; Larson et al. 2013). 日本国内では相模湾から土佐湾の太平洋沿岸, 紀伊水道, 瀬戸内海, 豊後水道, および東シナ海大陸棚域から報告されており (山田ほか, 2007; 山田・柳下, 2013; 池田・中坊, 2015), 本研究によって鹿児島県内之浦湾からも記録された。

**備考** 鹿児島県内之浦湾産の標本は, 扁平石が厚く, 内側にある溝 (サルカス) が後方で湾曲する, 犬歯がない, 腹膜が黒いことにより, Sasaki and Kailola (1988) が定義した *Atrobuca* 属に同定された. なお, Sasaki and Kailola (1988) は, *Atrobuca* 属の標徴に鰓の形態をあげたが, 本標本は体サイズが小さいため, 鰓の形態を詳しく観察することができなかった. また, 本標本は背鰭軟条数が 10, 頭長が体長の 32.8%, 両眼間隔が体長の 8.3%, 口腔内と腹膜が黒い, および胸鰭上方に黒色胞が散在するなどの特徴が Sasaki and Kailola (1988) や山田・柳下 (2013) が示した *Atrobuca nibe* の標徴と一致したため, 本種と同定された。

*Atrobuca nibe* は Jordan and Thompson (1911) によって, 和歌山県和歌浦から得られた標本に基づき新種 *Sciaena nibe* として記載された. 以降, 本種は *Sciaena* 属に含まれていたが, Chu et al. (1963) により *Atrobuca* 属に整理された. その後, Trewavas (1977) は, インド・西太平洋のニベ科魚類の分類学的再検討のなかで, 台湾産の標本に基づいて新種記載された *Pseudotolithus brunneolus* Jordan and Richardson, 1909 のホロタイプと *Atrobuca nibe* を比較し, *S. nibe* が *P. brunneolus* の新参異名であることを明らかにした. しかし, Trewavas (1979) は, *P. brunneolus* が記載されて以降一度も有効種として出版物内で扱われなかったこと, *S. nibe* が記載された後の 66 年間で本名義名が 4 本の分類学論文と複数の生態や漁業関係の出版物で用いられたこと, *S. nibe* が *Atrobuca* 属のタイプ種となっていること, 本種が水産重要種であることなどの理由により, *S. nibe* を有効とす

べきとして動物命名法国際審議会に裁定を求めた. 審議の結果, 強権 (国際動物命名規約 81 条) の下, *P. brunneolus* を遺失名とし, *S. nibe* を有効とすることが決定された (Melville, 1983).

Jordan et al. (1913) は, 本種の和名を“ハマニベ”とした. その後, 岡田・松原 (1938) と Okada (1938) は本種の和名をクログチとしており, 現在までクログチが標準和名として使われている (山田ほか, 2007; 山田・柳下, 2013 など).

これまでクログチは相模湾から土佐湾の太平洋沿岸, 紀伊水道, 瀬戸内海, 豊後水道, および東シナ海大陸棚域から記録されていた (山田ほか, 2007; 山田・柳下, 2013; 池田・中坊, 2015). 本研究で鹿児島県内之浦湾から得られた標本は鹿児島県からの初記録であり, 日本本土沿岸における南限記録となる. また, これまで豊後水道と土佐湾沖から記録があることから (山田・柳下, 2013), 本種は宮崎県沿岸も含めた九州東岸に広く分布する可能性が示唆された。

## ■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり, 標本の採集にご協力いただいた高知大学の内藤大河氏と川内貴斗氏, 鹿児島大学総合研究博物館の畑 晴陵氏, ならびに内之浦漁業協同組合の皆さまに感謝する. 西海区水産研究所の松沼瑞樹氏には, 本原稿に対し適切な助言を数多くいただいた. 鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の吉田朋弘氏には, クログチの学名の混乱に関わる文献収集の手助けと数多くの助言をいただいた. また, 鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の学生やボランティアの皆さまには, 標本の作製および登録作業においてご協力いただいた. ここに深く感謝する. 本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた. 本研究の一部は JSPS 研究奨励費 (PD : 26-477), JSPS 科 研 費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPS 研究拠点形成事業—アジア・アフリカ学術基盤形成型—「東南アジア沿岸生態系の研究教育ネットワーク」, 総合地球環境学研究所「東南アジア沿

岸域におけるエリアケイパビリティーの向上プロジェクト」, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」, および鹿児島大学重点領域研究環境(生物多様性プロジェクト)学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

## 引用文献

- Chu, Y.-T., Y.-L. Lo and H.-L. Wu. 1963. A study on the classification of the sciaenoid fishes of China, with description of new genera and species. Science and Technology Press of Shanghai, Shanghai. ii + 100 pp., 40 pls.
- Hubbs, C. L. and K. F. Lagler. 1947. Fishes of the Great Lakes region. Cranbrook Institute of Science Bulletin, 26: 1-186.
- Hussain, S. and L. A. Jawad. 2014. First records of *Opisthognathus muscatensis* Boulenger, 1888 (Opisthog-nathidae), *Trachinotus baillonii* (Lacepède, 1801) (Carangidae), and *Atrobuca nibe* (Jordan & Thompson, 1911) (Sciaenidae) off the Iraq coast, Arabian Gulf. International Journal of Marine Science, 4 (28): 253-258.
- 池田博美・中坊徹次. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 東海大学出版部, 秦野. 597 pp.
- Jordan, D. S. and R. E. Richardson. 1909. A catalogue of the fishes of the island of Formosa, or Taiwan, based on the collections of Dr. Hans Sauter. Memoirs of the Carnegie Museum, 4 (4): 159-204.
- Jordan, D. S., S. Tanaka and J. O. Snyder. 1913. A catalog of fishes of Japan. Journal of the College of Science, Imperial University of Tokyo, 33(1): 1-497.
- Jordan, D. S. and W. F. Thompson. 1911. A review of the sciaenoid fishes of Japan. Proceedings of the United States National Museum, 39 (1787): 241-261.
- Larson, H. K., R. S. Williams and M. P. Hammer. 2013. An annotated checklist of the fishes of the Northern Territory, Australia. Zootaxa, 3696 (1): 1-293.
- Lin, C.-H. and C.-W. Chang. 2012. Otolith atlas of Taiwan fishes. National Museum of Marine Biology and Aquarium, Pingtung. 415 pp.
- 松原喜代松. 1955. 魚類の形態と検索. Part I. 石崎書店, 東京. xi + 789 pp.
- Melville, R. V. 1983. Opinion 1272. *Sciaena nibe* Jordan & Thompson, 1911 (Pisces): specific name *nibe* conserved under the plenary powers. Bulletin of Zoological Nomenclature, 41: 26-27.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- Okada, Y. 1938. A catalog of the vertebrates of Japan. Maruzen Co. Ltd., Tokyo. iv + 412 pp.
- 岡田繭一郎・松原喜代松. 1938. 日本産魚類検索. 三省堂, 東京. xl + 584 pp.
- Sasaki, K. 1995. A review of the Indo-West Pacific sciaenid genus *Panna* (Teleostei, Perciformes). Japanese Journal of Ichthyology, 42 (1): 27-37.
- Sasaki, K. 2001. Sciaenidae. Pp. 3117-3173 in Carpenter, K. E. and V. H. Niem, eds. FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 5. Bony fishes part 3 (Menidae to Pomacentridae). FAO, Rome.
- Sasaki, K. and P. J. Kailola. 1988. Three new Indo-Australian species of the sciaenid genus *Atrobuca*, with a reevaluation of generic limit. Japanese Journal of Ichthyology, 35 (3): 261-277.
- Trewavas, E. 1977. The sciaenid fishes (croakers or drums) of the Indo-West-Pacific. Transactions of the Zoological Society of London, 33 (4): 253-541.
- Trewavas, E. 1979. *Sciaena nibe* Jordan and Thompson, 1911 (Pisces). Proposed conservation of the specific name *nibe* by use of the plenary powers. Bulletin of Zoological Nomenclature 36 (3): 155-157.
- 山田梅芳・時村宗春・堀川博史・中坊徹次. 2007. 東シナ海・黄海の魚類誌. 東海大学出版部, 秦野. lxxiv + 1262 pp.
- 山田梅芳・柳下直己. 2013. ニベ科. Pp. 969-973, 2017. 中坊徹次(編), 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版部, 秦野.